

●埼玉県「南田島の足踊り」

南田島ちびっ子囃子連

小学1年生 鈴木亮太（小太鼓）

おはやしのほんばんにでてきんちょうした

中学1年生 鈴木悠奈（笛）

あんなに大きいところでやるのは初めてだから、きんちょうした。いっぱいの人前でやるのはきんちょうしたけど拍手してもらえてうれしかった。また出たい。

小学2年生 萩原沙雪（小太鼓）

わたしは、もっとうまくやりたいなとおもいました。大ぜいの人たちのまえできんちょうしてたけど、がんばってきんちょうしないようにがんばりたいとおもいます。かねをやりたいからこんどおしえてください。月よう日はありがとうございました。いちばんインドのおどりがすごかったです。みんなでたいことか大だいことかすごくみんなきんちょうしました。たいこたのしかったとおもいます。こないだの月よう日たのしかったです。

小学4年生 萩原香野（鉦）

月曜日はお世話になりました。たくさんの人たちの前でのえんそうはすこしきんちょうしましたがわたしじしんはしっぱいせずにできたのでよかったです。こんどまたこのような大ぶたいがあったらもっと上手にできるようにたくさんれんしゅうをしたいです。

中学2年生 萩原柊（足踊り）

今回の発表では、初めて人前で足踊りをしました。うまくできるか心配でしたが、案の定ミスをしてしまいました。次またやるときがあったらミスをしないようにしたいです。関東代表で選ばれたのはすごいことだと思うので、ほこりに思っています。

小学6年生 田中楓（笛）

お客さんが多かったのできん張して音がはずれてしまったり息がつづかなかったり、順番が変わったのに気付かなかったりして、失敗してしまっただけで自分の全力を出せたのでよかったです。しの笛をもっと練習してもっと上手になりたいと思いました。

小学4年生 遠藤楓佳（小太鼓）

わたしは、足おどりをやって、たのしかったです。ほかのチームもすごかったけど、わたしたちのチームは、子どもだけだったのですごかったと思います。わたしは、入ったばかりなので練習をして、うまくなりたいです。

本番のときあまりきんちょうをしませんでした。なぜかというわたしは、ようち園のねんちょうから三年生までチアをやっていて、本番がなれていたからぜんぜんきんちょうしませんでした。みんなとやってたのしかったです。

小学6年生 城美和子（鉦）

『ぼくたち、わたしたちのニッポンの祭り』楽しかったです。いろいろな地域があつまってましたが、神様に祈ったり、特産品の豊作をいわったりするなど、何のためのおどりかも知りたいです。でも、地域で、こんなおどりをやってるよ、とたくさんの人に知らせることができるので、これからも続けてほしいです。

「『ぼくたち、わたしたちのニッポンの祭り2018』に参加して」 小学3年生 清水咲矩椰（小太鼓）

一番目のたいこだったので、まちがえずにたたけてうれしかったし、楽しかったです。今度は笛をやりたいです。

小学6年生 原澤凜波（笛）

私は、笛を練習してから、初めてあんなに大きなステージに立て、お客さんがたくさんいる中、笛をふきました。とてもきんちょうしてすこし音がすれちゃったところもあったけど自分では上手にできたかなと思いました。

ですが、今回は、2人で笛をふいたのでまちがってもすこしは、だいじょうぶだったけどいつもは1人なのでしっかりと練習して次の発表ではしっばいしないように、がんばりたいです。

「参加してみて」 中学2年生 橋本優太郎（足踊り）

私は、この大会に参加して、様々な事を思いました。まさか自分が今まで普通にやってきたおはやしが全国大会に出るなんて思ってもいませんでした。足踊りという特殊な踊り方をするからでしょうか。この大会に出場して自分のおはやしがどれだけすごいかが分かりました。また機会があれば出場したいです。

中学1年生 中山雄太（ヒョットコ踊り）

ぼくは川越まつりの山車では発表したことがあったけど、大きな舞台は初めてでした。あがってしまいましたけどよかったです。

「『ぼくたち、わたしたちのニッポンの祭り2018』」 小学4年生 貝塚進太郎（ヒョットコ踊り）

ぼくは、日本青年館ホールで『ぼくたち、わたしたちのニッポンの祭り2018』にさ

んかしました。はじめのリハーサルでは、あまり人がいませんでしたが、本番になって練習どおりとてもうまくおどろうと思っていました。見る人が多かったけれどきんちょうしないでぎゃくにやる気持ちがあふれました。そしてしょうくんが1分くらいのメッセージを言った後笛が鳴りだしておどる番が回ってきました。後ろでしゅうじろうと、うちのくんで小だいこをたたいてぼくと、ゆう太くんでひょっとこのおどりをおどりました。ほかにもインドのおどりやげきみみたいなおどりがたくさんありました。それを見たりするのがとてもたのしかったです。ほその先生、はぎわら先生、足おどりをおしえてくれてありがとうございます。ぼくは、いつまでも足おどりを続けたいです。

「ニッポンのまつり2018」 小学1年生 貝塚秀慈郎（小太鼓）

ぼくは、しんじゅくのせいねんかんホールでみなみたまのあしおどりをしました。ぼくは、こだいこをたたきました。げんきいっぱいよくたたきました。ぼくの、よこにはうちのくんがたたきました。うちのくんのおかげでゆっくりたたきました。ステージのまわりには、いっぱい人がいました。きんちょうしましたが、たのしかったです。

ほそのせんせい、はぎわらせんせい、ありがとうございます。

中学3年生 城研太（足踊り）

日本各地に伝わる民俗芸能。引き継ぐ者が少なくなっているというのが一般論でありませんが、僕が思うには毎年一定数の子どもたちが民俗芸能に参加している様に思えます。彼らはどのような理由で民俗芸能に参加しているのでしょうか。

僕が「ちびっこ囃子連」の門をおしたのは父に「お囃子をやってみないか」と、というような話を持ち掛けられ、なんとなくで、始めたのがきっかけです。その、「なんとなく」という気持ちは今も変わりません。半ば、なし崩し的に練習を重ね、何回も公演にでてきました。

そうして迎えた今回の公演。『ぼくたち、わたしたちのニッポンの祭り2018』は、僕にとってとても重要な公演となりました。僕が代表になり、スピーチをすることになったからです。

僕はとても焦りました。なにせ、不特定多数の前で話すという経験がないからです。そしてあたり前のように、スピーチの文を作るという経験もありませんでした。しかし、ちびっこ囃子連の中で古参なので、退くことはできないと思いました。

スピーチの文を作ったとき、8割…7割ほど、父の手を借りました。スピーチの文は偉大な先駆者のおかげでなんとかなりりましたが、やはり話すとなると僕では経験値が足りなかったようです。いろいろな人に「暗い」と言われました。初めてにしては上手くやったと思っていましたけどね。

僕が足踊りを続けてきた理由は、やめられない程度に楽しかったからだと思います。この民俗芸能を後の世に伝えていきたいなんて大層な理由ではなくて。他の人も、新しく入

りたいと思った人も、ただ楽しみたいからだと思います。友達（仮）のU君は川越まつりの山車で狐を踊りたいそうです。カッコいいと思ったからやってみたいという人が多いかもしれませんね。

僕の母校である牛子小学校では小学3年生になると総合の授業で足踊りを教わります。それを教わってちびっ子囃子連に入った人も多いです。民俗芸能をつなげていく方法。それは、見る人に感じられるような何かなのかもしれませんが。